

実践事例⑨ 港区立小中一貫教育校お台場学園

1 取組・活動名

「防災Jr.チーム活動」

2 取組・活動のねらい

- 港区総合防災訓練への参加を通して、防災知識、技能及び行動の仕方について学ぶことにより、地域へ貢献しようとする児童・生徒の育成

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・6時間」

4 実施上の工夫

- ・ 港区総合防災訓練の実施に向けて事前に消防署や地区総合支所、地区防災協議会等と連携・協力する。
- ・ 災害発生時にどのような活動が必要か、また役割について事前に確認する。
- ・ 体験活動中は幼児や小学生が参加するため、各班でサポートをしながら配慮した行動をとるよう指導をする。
- ・ 児童・生徒に対し知識・技能の上達を認めたり、声掛けをしたりする。

5 本取組・活動の内容



「搬送・誘導班の活動」

- ・ 搬送・誘導班の活動は、消防署の方から、簡易担架の組み立てやけが人の搬送の方法を学んだ。また、簡易トイレの設置方法やリヤカーの取り扱いも学んだ。
- ・ 当日は、傷病者に見立てた人形を使い、簡易担架を組み立て、安全な場所まで搬送する訓練を行った。



「消火班の活動」

- ・ 消火班は消火器の取り扱いや、消火訓練、D級消火ポンプの取り扱いを学んだ。
- ・ 消火器の操作方法については、中学生が小学生や地域の方々に説明を行った。その後、参加者は、実際に消火訓練を実施した。
- ・ 訓練当日は、消火班の代表生徒が実際の火災現場でも使用するD級消火ポンプで消火訓練を行った。



「食糧班の活動」

- ・ 食糧班の活動では、ガスバーナーを設置してお湯をわかし、アルファ化米が入った箱にお湯を入れて、炊き込みご飯を作った。その後、防災訓練の参加者のために、1人分ずつパックに詰めて配布した。

6 成果

- ・ 児童・生徒は、班の活動内容を理解し、港区総合防災訓練で自主的に活動することができた。
- ・ 中学生が、小学生に消火方法や救命活動を教えることで、人の役に立つことの意義を感じ取ることができた。
- ・ 6月に行ったアンケート調査と比較すると、「人の役に立ちたいと思いますか」という項目で、「とても思う・思う」の割合が、事前61%から事後91%となり増加した。